2 共同研究計画

1 研究教科 「特別の教科 道徳」

研究主題

「自分の考えを持ち、互いに伝え合う道徳の授業の在り方(2年次)」

2 主題設定の理由

本校では、平成30年度から特別の教科道徳で校内研究に取り組んできた。これは、アンケートや話し合いにより、児童に次のような力を身に付けさせたいという意見が多く挙げられたからである。

- ①自分の言葉で表現する力や聞く力, 話し合いの力
- ②粘り強く取り組む力, 諦めない力
- ③思いやり、相手の気持ちを考える力

この一年間,研究授業をはじめとして,週に一度の道徳の時間の中で,児童が自分の考えを持ち表現させるような授業の実践に取り組んできているが,年度末のアンケートでは,児童が必ずしもねらいとして掲げた力を身に付けていないのではないかという回答が目立った。さらに,善悪の判断を自分ですべきことでも,周りに流されてしまい正しい行動をできないでしまっている一部の児童の様子から、自分を律する力が足りないと感じている教員もいる。

また、平成30年度からは、道徳が教科化になり、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことが目標とされている。日常生活の中で生きて働く道徳へ向けて、授業では多面的・多角的に考え、互いに議論するような学習活動が求められている。教科化されて1年が経つが、求められている学習活動を実践するためには、どのように道徳の授業を展開していけば良いか、更に研修を深めていく必要があると考える。

これらのことから、昨年度取り組んだテーマ「自分の考えを持ち、互いに伝え合う道徳の授業の在り方」で引き続き研究に取り組んでいくこととした。

3 研究の目標

特別の教科道徳において、自分の考えを持ち、互いに伝え合う授業の在り方について、授業実践を通して明らかにしていく。

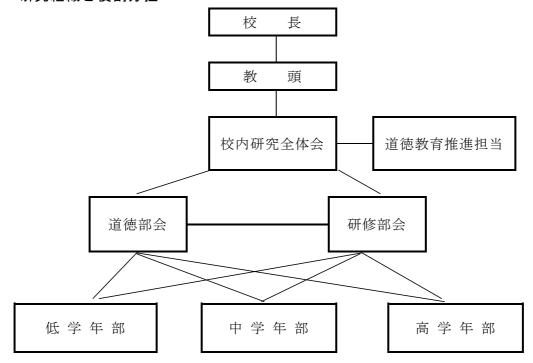
4 目指す児童の姿について

年度初めに設定する。

5 研究の視点

年度初めに設定する。

6 研究組織と役割分担



○校内研究全体会(年2回程度)

第一回:校内研究の方向性を確認する。

第二回:年度末に共同研究を振り返り,次年度の方向性を決める。

○研修部会·研修部員

研究の進め方について連絡・調整・協議をする。

各学年(部)の研究実施の主担当として,研究を進める。

○道徳教育推進担当

道徳部会をとりまとめ、道徳教育の全体計画の作成や、推進にあたる。

○道徳部会

年間指導計画の見直しや教材整備を担当する。

○正副教務主任・特別支援教育担当・国際教室担当・少人数担当は、各学年部に適宜配置する。

7 研究の進め方

- (1) 研究母体: 学年部
- (2) 一人一授業を公開する

全校授業研究

・授業者 学年部代表1名(低・中・高で3コマ)

・指導案検討 学年部・授業研究 全職員参加・事後検討会 全職員参加

学年部授業

・授業者 全校授業研を行わない教員

·指導案検討 学年部

・授業研究 学年部+都合がつく教員

・事後検討会 学年部+参観した教員(参加できない場合は感想等を渡す。) ※特別支援学級,算数少人数担当者等も道徳と別に授業を公開する。

8 校内研究の年間計画(案)

.,		
月	活動内容	その他
4	研究全体会(校内研究について)仙台市標準学力調査全国学力・学習状況調査(6年)	
5	・児童理解研修・救急救命講習・エピペン研修	
6	・授業研究 ・OJT	
7	・授業研究 ・0JT ・仙台市標準学力調査結果分析	
8	・授業研究 ・OJT	
9	・授業研究 ・OJT ・全国学力・学習状況調査分析	
1 0	・授業研究 ・OJT	
1 1	・授業研究 ・OJT	
1 2	・授業研究 ・OJT	
1	・授業研究 ・OJT	
2	・研究全体会 次年度の研究について	
3	・研究のまとめ印刷、配付	